

項目	意見内容	愛知県からの回答
<p>資料1-1 1 森林整備事業 人工林整備① (農林基盤局)</p>	<p>自力での林業活動では整備が困難な人工林の間伐を重点的に推進していくことは、森税の使用目的としてはきわめて妥当なものであり、今後の自伐型林業の推進にも大きな助けとなるはずです。2020年度の達成率が低かったのは、想定以上に整備の困難な地域が多かったためでしょうか。</p>	<p>2019年度以降は防災減災対策を重点的に推進しており、道路沿いの伐採等に要する経費が高かったため、達成率が低調となっております。 今後は、目標とする間伐面積に向けて、経費削減に取り組むとともに防災減災事業地とその他事業地のバランスを取りながら実施してまいります。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 人工林整備② (農林基盤局)</p>	<p>防災・減災・ライフライン確保・交通安全の観点から取り組まれている森林整備は、地域住民はもとより山間地域を訪れる人たちにも大変有意義な事業であり、事業効果も大きく事業要望が強い。しかしながら、沿道沿いの事業は伐採搬出費用の他、交通誘導、電柱の安全対策などの費用が必要となり実績が計画量より下回る要因となっていると思われる。そんな点についても考慮していただきたい。</p>	<p>資料1-1 1 森林整備事業 人工林整備① の回答と同じです。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 人工林整備③ (農林基盤局)</p>	<p>人工林間伐の2021年度計画値が当初の数値より減っています。理由は何ですか？</p>	<p>2021年度計画値【1,308ha】は、8月末時点の発注工事の計画承認面積です。 9月以降に発注する間伐面積がこれに追加されます。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 人工林整備④ (農林基盤局)</p>	<p>沿道・集落周辺の間伐は大きな成果を上げている。しかし、事業完了後の管理（下草刈り等）も必要であり、支援策に取り組んでほしい。</p>	<p>あいち森と緑づくり事業（人工林整備）では、防災減災、ライフライン確保のための間伐を重点的に進めることとしております。 事業完了後の管理（下草刈り等）は事業の対象となっておりませんが、委員の皆様のご意見をいただきながら、内容の充実に努めてまいります。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 次世代森林育成① (農林基盤局)</p>	<p>皆伐後の再生林はすでに全国的に問題となっており、「次世代森林育成」の事業計画は、今後重要度が増してくるよう思います。</p>	<p>次世代森林育成事業の推進により、再生林の促進に取り組んでまいります。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 次世代森林育成② (農林基盤局)</p>	<p>次世代森林育成が低調のように見受けられますが、何か理由があるのでしょうか？</p>	<p>次世代森林育成事業は、皆伐後の再生林を行う事業であるため、皆伐の進捗状況に大きく影響を受けます。 引き続き「伐る・使う→植える・育てる」循環型林業の推進に努めてまいります。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 次世代森林育成③ (農林基盤局)</p>	<p>次世代森林育成の今年度計画されている事業量が昨年度実績よりも大幅に伸びているが、増加の背景や、今年度どこでどのような事業地（場所、規模、樹種等）が計画されているのかを知りたい。</p>	<p>事業量が増加している理由は、初年度から実施している植栽と獣害防止施設に加え、今年度から下刈りが追加されているためです。 計画では、岡崎市で下刈り（0.12ha）を1箇所、豊田市で植栽（1.06ha）と獣害対策を3箇所、下刈り（5.48ha）を6箇所、北設楽郡で植栽（1.42ha）と獣害対策を2箇所、下刈り（1.99ha）を1箇所、新城市で植栽（0.12ha）と獣害対策を1箇所行う予定となっております。</p>

項目	意見内容	愛知県からの回答
<p>資料1-1 1 森林整備事業 次世代森林育成④ (農林基盤局)</p>	<p>スギ・ヒノキ人工林の皆伐後に行われる花粉対策苗木の植栽は、山間地域に暮らす花粉症の住民にとって必要な事業であり積極的な推進が望まれる。 鹿の駆除は、東栄町・豊根村では毎年800頭以上、設楽町では1000頭以上行っているが、鹿の被害は年々増え続けている。そのため、山主は山の管理をすることに対して関心が薄れているように思われる。</p>	<p>花粉症対策苗木の植栽は、多くの県民が求めている事業であると認識しております。 また、ニホンジカによる被害は年々被害面積が拡大しており、山林所有者にとって大変大きな問題となっております。 次世代森林育成事業により、再生林の促進及び獣害対策ネットの設置に取り組んでまいります。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 次世代森林育成⑤ (農林基盤局)</p>	<p>次世代森林育成の再生林に関する事業量が少ない。 原因はどこにあるのか？</p>	<p>資料1-1 1 森林整備事業 次世代森林育成② の回答と同じです。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 次世代森林育成⑥ (農林基盤局)</p>	<p>次世代森林育成事業の2021年度計画値が当初の数値より減っています。理由は何ですか？</p>	<p>資料1-1 1 森林整備事業 次世代森林育成② の回答と同じです。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 次世代森林育成⑦ (農林基盤局)</p>	<p>次世代森林育成の推進にあたっては、皆伐後の補助金であるため、皆伐を進めるためには、伐採・搬出などの補助制度設立が必要である。</p>	<p>農山漁村地域整備交付金の花粉発生源対策促進事業では、スギ、ヒノキの人工林を花粉の少ない森林へ転換を図る目的で、立木の伐倒・搬出の経費についても補助対象としています。 また、循環型林業推進事業では、全木集材の経費のうち末木枝条の搬出にかかる経費についても補助対象としています。 次世代森林育成を推進するため、今後も目的や条件に応じた適切な補助金の活用及び充実を図ってまいります。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 里山林整備① (農林基盤局)</p>	<p>景観に配慮した除伐等に対して、さらなる展開をお願いします。</p>	<p>事業効果が更に発揮できるよう、予算の有効活用に努めるとともに、令和5年度の事業見直し時に充実した事業メニューとなるよう検討してまいります。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業 里山林整備② (農林基盤局)</p>	<p>里山林整備は「継続3ヶ所」とあります。継続となる理由や状況について説明をお願いします。</p>	<p>市町村が、調査と工事で複数年（2～3年）計画で申請していることや、予算規模に対して事業の要望が多いため、一事業地について複数年で整備を行うよう調整しております。</p>
<p>資料1-1 2 都市緑化推進事業① (都市・交通局)</p>	<p>納税者の多くは都市部に居住しており、都市緑化推進事業が森と緑づくり税の使用目的の一つに合致していることは、言うまでもありません。使い方は各市町村に委ねられているようですが、他の事業と比べてその成果がもっとも“見える”はずにもかかわらず、どの町のどこがどう良くなったのか、全体的にややPR不足であるように感じます。</p>	<p>都市緑化推進事業の前計画（H21年度からH30年度）の取組結果として、約100haの緑地の保全・創出がされ、大きな成果が得られました。 これらの事業全体の成果のほか個別の成果についても、県のホームページへの掲載や各種イベントにおけるPRなど、あらゆる機会を通じて積極的なPRに努めてまいります。</p>

項目	意見内容	愛知県からの回答
<p>資料1-1 2 都市緑化推進事業② (都市・交通局)</p>	<p>市街化区域内残存緑地（2次林）の県あるいは市町村による買取等による保全及び都市における入会地的利用の模索および指導。 3の環境活動との連動の仕組みづくりの必要性。 どこかでモデル事業の推進。</p>	<p>市街化区域内残存緑地の市町村による買取等による保全や活用のための事業について、市町村と相談しながら検討してまいります。 環境活動との連動については、両事業で連携の仕組みを検討してまいります。</p>
<p>資料1-1 3 環境活動・学習等推進事業① (環境局)</p>	<p>SDGsの取り組みを掛け声だけで終わらせないためにも、環境活動・学習事業、とくに生物多様性保全の観点から、森や生きものの保全活動や若者向けの環境学習への支援を一層進める必要があるように思います。</p>	<p>森や生きものの保全活動については、県内9地域で設立した「生態系ネットワーク協議会」による保全活動及び啓発活動を始め、様々な団体が地域の課題や実情に応じた活動を実施しており、これに対して県ではあいち森と緑づくり税による支援を継続していく所存です。 また、SDGs未来都市計画に基づき、ユース（学生）を核とした多様な主体の連携による生態系保全活動及び活動状況の発信に取り組んでいるところです。 御指摘の支援を進めていけるよう、今後、環境活動・学習推進事業交付金の周知に一層努めてまいります。</p>
<p>資料1-1 3 環境活動・学習等推進事業② (環境局)</p>	<p>市街化区域内農地での都市農業の支援を環境活動・学習等推進事業として位置づけ、支援できないか。</p>	<p>単なる農作業や体験としての米づくり等の活動は対象外ですが、水田ビオトープをつくるなど、森と緑の環境活動・学習を行う手段として農業関連の活動を行う場合は、対象となります。</p>
<p>資料1-1 3 環境活動・学習等推進事業③ (環境局)</p>	<p>コロナ禍の中で各団体の活動が予定通りに実施できないことが予想される。申請通り実施しないと次回から予算を切られるのではないかと不安に思い、無理に実施することがないよう、延期や中止に対する柔軟な対応をお願いしたい。</p>	<p>今年度の新型コロナウイルスの拡大状況を考慮すると、当初計画どおりに事業を遂行できない場合があることはやむを得ない面があることは承知しております。 同ウイルス感染予防の観点から事業を延期や中止することは、来年度の事業採択に何ら影響するものではありません。</p>
<p>資料1-1 1 森林整備事業～ 4 事業推進費 資料作成 (農林基盤局)</p>	<p>資料について。2021年度に関しては、8月末の見込み数値とありますが、入力されているのは計画欄です。この数値は、8月末時点での進行状況を示す数値なのか、それとも年度末を予想した見込み数値なのか？わかりにくいです。 年間計画数値と8月末の状況数値を併記するのがわかりやすいと思います。</p>	<p>2021年度の数値は、8月末時点での実績見込み数値であり、今後、年度末までに実績数量が増加していくこととなります。 今後は、計画数値と実績数値を併記するなど、理解しやすい資料としてまいります。</p>
<p>資料1-1 4 事業推進費 改善提案 (農林基盤局)</p>	<p>・普及啓発について、SNS、動画配信を今以上に活用する。（森ずきんちゃんのFacebookでの情報発信は承知しています。）具体的には、Instagramで写真や動画を発信する（森や緑に関心はあるが「あいち森と緑づくり事業」について知らない人向け）、アニメキャラクターとコラボして森や緑に関する動画配信をする（森や緑に関心のない人向け）、など。</p>	<p>これまで、外部への普及啓発の取組は、①年2～4回程度のイオン店舗でのPR、②体感ツアー、③森ずきんちゃんFacebook、④県HPでの掲載、などでした。 今後の普及啓発方法につきましては、来年度実施する評価アンケートにおいて、周知方法等に関する質問もアンケートに加え、現状把握を行いながらよりPR効果の高い方法を検討してまいります。</p>

項目	意見内容	愛知県からの回答
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり① (農林基盤局)</p>	<p>現在は、いわゆるウッド・ショックによって一時的に国産材の価格が上昇していますが、バブル的な要素も大きいので、長期的に安定した需給バランスを確立するために、愛知県においても国産材需要（出口）の開拓を地道に進めていく必要があると思います。税込増にもかかわらず、2021年度の予算がほぼ横ばいなのはなぜでしょうか。「木の香る都市づくり」にもっと積極的に関わっても（支援しても）よいのでは？</p>	<p>あいち森と緑づくり事業計画で定められた10年間の事業費を元に予算化しているため、例年と同額の予算となっております。 なお、近年は特に、木の香る都市づくり事業の認知度が上がり、木材のPR効果が高いと思われる施設の応募が増えている状況ですので、委員の皆様のご意見をいただきながら、支援の充実に努めてまいります。</p>
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり② (農林基盤局)</p>	<p>木製品導入の、製品のデザインの質を上げ、ブランド化。 希望者は自分たちのデザインを行っても良いし、県のブランド製品を選んでもよいなどの選択ができるようにする。</p>	<p>木の香る都市づくり事業の選定の中で、PR効果や普及に係るデザインについても考慮しております。デザインについては、応募者が希望する形で申請いただくことが可能です。</p>
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり③ (農林基盤局)</p>	<p>木造の学童保育所の取り組みを着実に定着させ、少しでも多くの児童が放課後過ごす環境整備を、本事業によって支援して頂くことを願います。</p>	<p>あおぞら学童保育クラブの木造化から3年目となり学童の木造化の動きが名古屋市から県内他地域、県外にも広がっています。引き続き学童保育のようなPR効果が高く、木材の親和性が高い施設の木造・木質化を支援してまいります。</p>
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり④ (農林基盤局)</p>	<p>応募したのに採択されない事業が多いとなると、念のため選定基準を明確化しておく方がいいように思いました。また、毎年同じような金額での事業実施でなく、申請に応じて、多い少ないがあってもいいと思います。</p>	<p>事業の選定におきましては、外部有識者等で構成された選定委員会を開催し、選定基準に基づき県産木材の利用における、PR効果、積極性、新規性などについて総合的に判定しております。また、応募状況を踏まえた事業費の調整については、あいち森と緑づくり事業全体の状況をみながら検討してまいります。</p>
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり⑤ (農林基盤局)</p>	<p>昨年、「あおぞら学童保育クラブ」の視察において、他ジャンルが知恵と経験を提供し支え合う事で新しい可能性を創造している現場を見れた事に大変感激いたしました。コロナの影響で輸入材の値段が上がっていると建設関係の方々からお聞きしています。今後、国産材の活用と雇用の場の増加を期待しています。</p>	<p>引き続き県産木材（国産木材）の安定供給と利用促進を図ってまいります。</p>
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり⑥ (農林基盤局)</p>	<p>学童保育クラブの木造化・木質化は全国的に注目を浴びており、県内でも来年度2か所ほどが計画されているほか沖縄、宮城、岡山など他県でも同様の取り組みを広げようという動きがある。 一方で学童側の予算が潤沢にあるわけではないので毎回シビアな事業計画の中で建築を進めており、外構等の一部工事を保護者らがDIYするなどの工夫で乗り切っている話を伺っている。木材供給側としては少しでも高く売りたいという願いはあるが、施主側の状況も理解できる。カーボンニュートラルの視点からも、学童に限らず地域に根差して長期的に使われる見込みのある建築物に対しては継続的な支援を期待する。</p>	<p>地域に根差し、今後の木材利用の波及効果の高い建築物に支援できるよう努めてまいります。</p>

項目	意見内容	愛知県からの回答
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり⑦ (農林基盤局)</p>	<p>1. 2019年度、2020年度は周知が進まず応募が少なかったが、2021年度は周知が進んで応募も増えた、とありますが、誰にどのように周知したのかを教えてください。また、2021年度は明らかに今までと違う周知活動をした結果なのか、それとも過去2年間の周知活動による効果なのか、わかる範囲で教えてください。</p>	<p>応募の増加は建築士等の関係者に事業の認知が徐々に深まった結果と考えられます。また、2020年度には県の広報テレビにおけるPR（村上佳菜子の週刊あいちっち、まるまるあいち）、2021年度の募集は広報あいちに掲載したほか、様々な機会を通じてチラシ等を活用したPRを行いました。 ※広報あいちとは、主要新聞（全国紙及び地方紙（中日新聞））で、毎月第1日曜日に2面分を使い、愛知県行政を広報しています。</p>
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり⑧ (農林基盤局)</p>	<p>2. 「あおぞら学童クラブ」の事例は、木造化することが学童の質を高めており、本事業と学童保育施設とは親和性が高い（win-winの関係である）ことに加え、学童の運営団体の経営能力が高いこと（木造化を実現するための資金繰りを支える学童経営の仕組みづくり、建築関係者や他の学童との関係構築、情報発信など）が、本事業の波及効果を高めていると思われます</p>	<p>「あおぞら学童クラブ」におきましては、事業主体の発信力が非常に高く、本事業のPRに大きく貢献していただいております。</p>
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり⑨ (農林基盤局)</p>	<p>これら（上記1と上記2）を踏まえて、以下提案します。 ■選定委員会の評価項目・方法の見直し 本事業で補助する施設の選定にあたっては、施設そのもののPR効果に加え、①施設の経営体制や関係者等とのネットワーク形成状況についてもヒアリングで把握する、②今までやっていなかったが今回の補助申請を期に新たに始める経営面での工夫を提案してもらい、などの評価項目を取り入れる。（既に取り入れている内容もあるかもしれませんが） ■経営に関するサポート 上記を重視すると、経営基盤が弱く、資金がない施設に補助が回らない、という可能性があります。本来はそういった施設ほど補助が必要なため、PR効果は高いが経営的な不安がある案件には、経営サポート制度（経営面での相談に応じたり、関係者との関係構築や情報発信のサポートをするなど、中間支援組織のような役割をもったコーディネーターを配置することを想定）を設けて、「資金補助+経営サポート」というセットで支援する。</p>	<p>木材の調達等に関する関係者との連携体制に関しましても、審査区分の中で評価させていただいております。 経営面でのサポートにつきましては、事業者からの意見を聞きながら検討してまいります。</p>
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり⑩ (農林基盤局)</p>	<p>川上と川下の繋がりが見えにくい。 消費者に顔の見える林業になっていくと良いのですが。</p>	<p>県内で生産されたあいち認証材を使用していることをよりPRするよう努めてまいります。</p>
<p>資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり⑪ (農林基盤局)</p>	<p>2021年度は応募件数が22件と大幅に増え、喜ばしいことですが、採択件数は6件です。予算の関係があるのは分かりますが、採択されなかった16件の扱いはどうなるのですか？知らないでは、国のワクチン供給を思い出しますが。 また、予算を増額できるような仕組みはないのでしょうか？</p>	<p>応募いただいた方に、不採択結果と予算の枠を大幅に超える応募があった旨についてお知らせしております。 今後、支援の充実につきましては、委員の皆様のご意見をいただきながら検討してまいります。</p>

項目	意見内容	愛知県からの回答
資料1-2 4 事業推進費 木の香る都市づくり ⑫ (農林基盤局)	「あおぞら学童保育クラブ」を見学できたことは素晴らしかった。森と緑づくり税事業の1. 2. 3. のそれぞれの代表実績をこの事業のアピール実績としてもっと県民全体に知ってもらうための広報の在り方が検討されてもよいと思う。	県のホームページへの掲載や各種イベントにおけるPRなど、あらゆる機会を通じて積極的なPRに努めてまいります。
資料2 2021年度の体感ツアー ① (農林基盤局)	地道ですが、こういう取り組みを継続していくことが重要かと思えます。まだコロナ禍で運営は大変かと思えますが、盛会となることを祈ります。	県民の皆様が「森と緑」に触れ合える機会を提供していきます。コロナ禍でのイベント実施となることから、感染対策を徹底していくことといたします。
資料2 2021年度の体感ツアー ② (農林基盤局)	・なぞとき樹木探偵というのがどんなことをするのか分かりにくいので説明なり写真が欲しい。	公園内を散策しつつ、チェックポイントごとにクイズに取り組み、楽しみながら学ぶ環境学習イベントです。身近な公園にも楽しめる森があること知ってもらい、森に親しんでもらうことを目的としています。なお、イベント名称は最終的に「なぞなぞ！？樹木散歩&どんぐり工作」となりましたが、樹木散歩と樹木探偵は名称が異なるだけで、内容は同一です。
資料2 2021年度の体感ツアー ③ (農林基盤局)	・チラシ案の写真(ブナ?)は活動地や活動内容とミスマッチしているように思う。親子連れがターゲットになると思うのでお子さんが楽しそうに活動している写真などのほうが良いのでは。	チラシやポスターなど、不特定の方々に周知する資料について、それに使用する写真に人物が写っている場合、被写体の肖像権等の観点から事前に承諾を得ておく必要があります。今回、承諾を得ている適切な写真が無かったため、樹木の風景写真とさせていただきます。今後は、イベントの企画に沿った写真とするよう努めて参ります。
資料2 2021年度の体感ツアー ④ (農林基盤局)	体感イベントは、そもそも森や緑に興味のある人達が参加する。興味の無かった人達に体感してもらい興味を持ってもらえるような仕組み作りも必要に感じる。	委員会の皆様のご意見をいただきながら、興味のある人だけでなく興味の無い人にも参加いただけるよう、工夫に努めてまいります。
資料2 2021年度の体感ツアー ⑤ (農林基盤局)	本年度の案について ・駐車場が集合場所なら、案内には「第〇駐車場 最寄り駅〇〇から徒歩〇分」等の案内が必要かと思えます。 ・小中学生のみでの参加は可能ですか？ ・2枚目の対象者は、「自家用車等で」とありますが、この書き方は、車での来場を想定しているように思われます。場所柄、公共交通機関が推奨とは言いにくいですが、「ご自身で集合場所まで来られる方」等の表現がよいかと。	小中学生のみの参加については、不測の事故等が発生することを考慮し、保護者同伴での参加とさせていただきます。 なお、募集チラシについてご指摘いただいた点については、チラシ作成にあたり修正させていただきました。
資料2 2021年度の体感ツアー ⑥ (農林基盤局)	来年度以降に向けて ・秋(11月)のみでなく、他の時期開催はどうでしょうか？ ・尾張、知多、東西三河などの地区に分けて、年度によりローテーションを組んで開催してほしいと思えます。	開催時期については、熱中症対策など様々な点を考慮する必要がありますので、委員の皆様のご意見をいただきながら検討してまいります。 開催場所については、できるだけ地域の偏りが無いよう、県内各地で開催するよう考慮しております。

項目	意見内容	愛知県からの回答
<p>資料2 2021年度の体感ツアー⑦ (農林基盤局)</p>	<p>屋外であっても、デルタ株以降はエアロゾル感染（空気感染）が主たる感染原因であることがわかっており、（市長がやっていたような）布マスクやウレタンマスクでは、もし感染者がいた場合にはほとんど役に立たないことが“科学的に”証明されています。「マスク着用にご協力下さい」ではなく、「不織布マスク着用」を必須とすべきです。念のため、使い捨て不織布マスクを何枚か用意しておく必要もありそうです。</p>	<p>記者発表資料及び募集チラシにつきまして、「不織布マスク」に修正させていただきました。また、体感イベント当日については、検温、手指消毒、適切な間隔を保つなどのコロナ対策を徹底するとともに、不織布マスクを事務局で準備しておきます。</p>
<p>資料2 2021年度体感ツアー⑧ 改善提案 (農林基盤局)</p>	<p>・来年もコロナの影響が続くようであれば、「あいち森と緑づくり体感ツアー」のオンラインバージョン（例えば、参加者に木工細工の材料を事前に送付し、当日はzoomで参加者と講師をつないで作り方を伝え、作品を見せ合いながら進めるなど）を開発してみるのもよいのではないのでしょうか。</p>	<p>コロナ禍の中、感染防止対策を講じてのイベント実施は準備の段階から様々な配慮が必要となります。ご提案いただいた内容につきましては、来年度以降の企画の際の参考にさせていただきます。</p>
<p>資料3 事業地視察 (農林基盤局) (環境局)</p>	<p>今回の視察内容については、特に意見はありません。 次回以降、「環境活動・学習推進」「生態系ネットワーク形成推進」に関わる事業を視察対象に入れるなどして、環境局担当の事業内容について意義や課題等がわかるようにしていただけると良いかと思えます。</p>	<p>感染対策として「現地集合・現地解散」若しくは「短時間の移動」を心掛け企画させていただき中、①交通安全、②感染対策、③視察実施体制の面から視察先を2か所に厳選させていただきました。 「生態系ネットワーク形成推進」に関わる事業としては、県内9地域で設立した「生態系ネットワーク協議会」を中心に、ビオトープ整備や在来種の植樹などを行っており、今後はそうした現場を委員に視察していただき、ご助言いただけるよう努めてまいります。</p>
<p>資料4 事業評価① (農林基盤局)</p>	<p>沿道伐採事業評価は、面積評価だけでなく、延長評価も取り入れる必要があるのではないかと考える。</p>	<p>第2期事業計画の人工林整備事業は、ライフライン確保のため防災減災対策に重点的に取り組んでおります。今年度から延長評価ができるよう、整備延長の報告を求めることとしております。</p>
<p>資料4 事業評価② (農林基盤局)</p>	<p>・事業評価について、評価項目案は第4回に提示するのでは遅い（時期的に検討に時間をかけられない）ので、できれば第2回～第3回の頃に、書面のみでいいので提示、意見聴取していただきたいです。（視察の際に補足説明していただいてもいいです）</p>	<p>評価項目（案）について、第3回委員会（事業地視察：市街地コース）の際に、ご提示することとし、書面にてご意見等をいただくようにしてまいります。</p>
<p>資料全般 改善提案 (農林基盤局)</p>	<p>当委員会は、開くことに意義があるのでなく、必要な意見を引き出し、事業に反映することが意義のほうです。 資料重複もそうでしたが、経費削減とスタッフの方の仕事量低減に向け、様々な角度から検討をお願いします。 原資は、県民の税金ですから。</p>	<p>貴重な財源を有効かつ効率的に活用するよう、更に心がけてまいります。 委員会では報告と連絡は資料配付等によりできる限り簡潔に済ませ、相談や意見交換の時間を十分とれるよう努めてまいります。</p>